



小笠原村立小笠原中学校 学校だより

令和3年12月1日 第8号
小笠原村立小笠原中学校
校長 小野満 賢

学校ホームページ

<https://www.ogachu.ogasawara.ed.jp>

変更になりました



学校フェイスブック

<https://www.facebook.com/ogasawara.jhs>



“SHO TIME”の裏側で

校長 小野満 賢



11月19日、ロサンゼルスエンゼルスの大谷翔平選手がアメリカンリーグのMVPに選ばれました。投票権のある30人の記者全員が大谷選手に1位の票を入れ、文句なしの満票での受賞でした。今回の修学旅行で訪れた東京タワーもこの日、彼の受賞を祝福し、背番号「17」にちなんで17時17分にライトアップして話題になりました。大谷選手の今シーズンの活躍ぶりはニュースで何度も取り上げられたので、野球に詳しくないという人も知っているのではないのでしょうか。私も今シーズンは、エンゼルス戦の実況アナウンサーの「イツ ショウ タイム!」「ビッグフライ! オオタニサン!」という声を何度も耳にしました。打者としてはホームランが46本、打点100、盗塁26、投手としては27試合に登板し、9勝2敗、防御率3.18、奪三振156を記録しました。プロの世界では不可能とされた

打者と投手の「二刀流」で年間を通じて試合に出場し、野球発祥の地であるがゆえに厳しい見方をするアメリカの誰もが認める素晴らしい成績を残しました。

「エースで4番」で野球を始めても、プロを目指す段階で投手か打者のどちらかを選択しなければならないのが通例です。大谷選手は「二刀流」にこだわってきましたが、最初から受け入れられていたわけではありません。何しろ前例がないのです。大谷選手は高校卒業後、すぐに大リーグに挑戦する意思を示していましたが、二刀流として活躍するには日本で経験を積んだ方がいいと説得され、結果的には日本のプロ野球で活躍し、5年後の2018年に海を渡りました。1年目こそ新人賞を取るほどの活躍でしたが、この年のシーズンオフに肘の手術をします。2019年はリハビリをしながら打者としてのみの活躍、その後も膝や腕の故障もあって2020年は投打とも大きな不振に陥り、そろそろどちらかに絞るべきではないかという声も高まっていました。シーズン前から二刀流の挑戦としては最後のチャンスだと本人も語っていました。まさに背水の陣で挑んだ今シーズンだったわけです。

“SHO TIME”は今シーズンの大谷選手の華々しい活躍の場面で使われた言葉ですが、その活躍の裏側には、その何倍も、何十倍も時間をかけ、繰り返してきた地道な練習があったのだらうと思います。もちろん類い稀な才能や恵まれた体格のおかげもあるのですが、それらを磨き、使いこなして敵も味方も魅了する全力プレーができるのは、野球に情熱のすべてを注ぎ、工夫や試行錯誤をしながら努力を重ねてきた結果であることは間違いありません。しかし彼には苦しみ抜いてきたというような悲壮感が全くありません。野球少年がそのまま大人になったと言われるほど、彼は心の底から野球が好きで仕方がないのだらうと思います。だからこそ自分をもっと野球がうまくなるための練習やトレーニングに、苦しいとか辛いとか思わずに打ち込めてきたのでしょう。

一方で、グラウンドでさりげなくゴミを拾う姿や、審判に敬意をもって接すること、ファンやチームメイトだけにではなく、敵チームの選手にも笑顔で接すること、どんなにすごい記録を打ち立てようとも謙虚で、奢る様子が全くないところがとても魅力的です。アメリカのファンには「アメージング!」と驚かれています。彼は普段の生活から当たり前のようにやってきたことなのだらうと想像できます。大谷選手の母校、花巻東高校の野球部の佐々木監督も、大谷選手は野球だけがすごかったのではなく、勉強も、寮の掃除も、書き物も、提出物もきちんとしていたと言います。「野球選手である前に、社会の一員としてきちんと振る舞ってほしい。」という監督の願いをしっかりと胸に刻み、身に付けているからこそ、普段の生活と変わらないグラウンドでの立ち居振る舞いがあるのでしょう。

受賞後のインタビューで、世界一の選手になるという目標は達成したかという問いに、「自分でそう思う日はおそらく来ないと思います。ゴールがない分、常に頑張れると思います。」と答えていて、記録に浮足立つことなく、さらに高みを目指す姿勢が格好いいなと感じました。

3年生はこれから面接練習が始まります。将来の夢についてはいろいろ考えることができるでしょう。今すぐに決める必要はありませんが、いずれ保育士、スポーツトレーナー、美容師等々、具体的な目標をもち、その職に就くために努力することは大事なことです。それに加えて、どんな保育士になりたいのか、スポーツトレーナーになって何をしたいのか、美容師になって叶えたいことは何なのか、「その先」を語れるようになるとその夢はより色鮮やかになり、立ち足はかかるであろう数々の試練を前に、自分自身を奮い立たせてくれるに違いありません。

できるかどうか分からないような試みを成功させるただひとつのものは、
まずそれができる、と信じることである。

ウィリアム・ジェームズ（米国の哲学者・心理学者／1842～1910）

第1学年「働く人の話を聞く会」

第1学年学年主任 高田 奈々

10月30日（土）の総合的な学習の時間において、キャリア学習の一環として「働く人の話を聞く会」を行いました。1学期中に「話を聞いてみたい職業」のアンケートを行い、希望の多かった職種の4名の方を講師としてお招きしました。東京消防庁の藤田勝さん、加茂商事株式会社の神山裕平さん、共同通信社の杉山麻子さん、NPO法人SOMAの瀬戸昌宣さんから仕事の内容や働くことの意義などについてお話をいただきました。1年生たちは、その実情に触れることで湧き出た質問を講師の方々に聞きながら、「働くこと」についてより深い学びに繋がられたようです。生徒の感想には、「人によって『働くこと』に対する考えや思いが異なるということを知ることができた。」「好きなことを仕事にしても苦労があるということがわかった。」「好きなことを仕事にする・人のために仕事をするなど、目的によって働き方が異なることを知ることができた。」など、「働くこと」について具体的なイメージをもつための良い機会になったと感じています。

1月に行われる総合発表会では、今回の「働く人の話を聞く会」を含めたキャリア教育、東平外来種駆除活動、母島移動教室事前学習について、1人1人が異なったテーマでの発表を行いますので、生徒たちがこの1年間で学んだ内容や考え・思いの変容などを楽しみにしていただければと思います。



家庭科「保育実習」

家庭科担当 高部 みなみ

11月11日（木）に、3年生が父島保育園にて保育実習を行いました。3学年の家庭科の授業では、1学期からこれまで、幼児の心身の発達や遊びの意義、子育てにおける親や地域の役割等、保育領域について学んできました。保育実習当日は、事前学習で自分たちが製作したおもちゃを活用した遊びや発達段階に合わせた遊びを計画通りに進めるために、班員同士で協力し合い、時には保育士の先生方にフォローしていただきながら、有意義な70分間を過ごすことができました。事後学習時には、「子どもと遊ぶって、楽しいけど大変だな」「計画通りにいかなかったな」「保育士さんってすごいな」等の感想が飛び交っていました。

この学習を通して、生徒自ら『地域で子どもを育てることの重要性』や『沢山の人の支えがあって今の自分があること』を感じることで、保育実習が大変意義のあるものだったと感じています。

現在、日本では子どもの成長に必要な、『時間』『空間』『仲間』の3つの『間』が少なくなっていると言われています。小笠原で育った生徒だからこそ、この問題にまっすぐ向き合い、導き出せる答えがあると思っています。生徒たちには、『子どもを育てる地域の一員として、自分には何ができるのか』ということ、考え続けてほしいと思います。



保健体育科 「薬物乱用防止学習」

保健体育科担当 麻生 直人

11月2日(火)に、内地から来島していた警視庁の方2名を講師にお招きして、3年生を対象に「薬物乱用防止学習」を実施しました。薬物の基本的な知識をはじめ、実際に内地で起きた検挙の事例や密輸の実態など、体験談も交えながらとてもわかりやすくご講義いただきました。生徒たちも熱心に聞いていて、今後内地に向かう際に役立つ知識を学ぶことができました。数名の生徒の感想を紹介します。



- ・大麻や覚醒剤などのワードは知っていたが、詳しいことは全然知らなかったのを知れて良かった。最近は密輸などが増えているが、世の中そんなおいしい話はあんまり無いので手を出さないようにしようと思った。
- ・自分の知らなかったことが、たくさん知れて楽しかったです。身近にある怖い世界を知って、これから一人暮らしを始めたときとかに、今日の授業を思い出して、そっちの世界に足を踏み入れないようにする。
- ・薬物は本当に怖いなど改めて思った。インターネットでも手に入るのは不安に感じた。密輸の方法がボタンに縫い付けるとか、大量に体の中に入れるとか、衝撃的すぎて驚いた。普通の薬でも使い方次第で乱用になることなど、知らなかったことも知れて良かった。

バレーボール部 「強化練習」

バレー部顧問 高部 みなみ

11月6日(土)～8日(月)、バレーボール部の強化練習が行われ、NTCバレーボール専任コーチングディレクターの三枝大地さんと元全日本女子バレーボール代表として活躍された横野有紀さんにご指導いただきました。

生徒たちは、ボールコントロールの方法、体の動かし方、基本的なパスのフォーム、実践的な動き方等を教わりました。バレーボールの技術だけでなく、「失敗しても粘り強く取り組むこと」「練習を継続していくこと」「考えてバレーをすること」の大切さも練習を通して学び、3日間の強化練習を存分に楽しんでいました。

また、今回の強化練習には母島中学校のバレーボール部の生徒も参加しました。新しい仲間とともに切磋琢磨しながら、『ボールを繋ぐ』という意味を考えた経験は生徒たちの財産になったはずです。

最後になりますが、今年度も無事に強化練習を行うことができたのも、講師や教育委員会の方々をはじめ、保護者の皆様や地域、卒業生の方々のご理解とご協力のおかげです。この場をお借りして、再度お礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後も小笠原中学校バレーボール部をよろしく願いいたします。



野球部「強化練習」

野球部顧問 矢代 祥大

11月1日(月)に野球部の強化練習が行われました。元ヤクルトスワローズの五十嵐亮太さんに来ていただき、ご指導いただきました。台風の影響で練習日数が減ってしまったのが少し残念でしたが、1日の練習で集中して教えていただきました。23年間のプロ野球とメジャーリーグでの経験を生かした少しハードなウォーミングアップ、送球を意識したキャッチボールなど、基礎的なメニューながらしっかりレベルアップできる内容でした。部員たちは、五十嵐さんから「いいね、飲みこみ早いね!」と励まされながらやり通すことができました。早速、次からの練習でも五十嵐さんから教わったことを取り入れ、自分たちからハードな練習に挑戦するなど、野球に対する意識も大幅に向上させることができました。勇気を出して五十嵐さんに話しかけて個別指導を受ける部員や、大勢の前でも質問をして知りたいことを教えてもらった部員もいて、気持ちの面でも成長できたと思います。



おが中生の活躍

(敬称略)

東京都内の公立中学校等に通う第1学年の生徒を対象にした令和3年度「防災ノート活用促進月間」における「防災標語コンクール」において、優秀作品として選ばれました。

「守ろうね 大切なのは まず命」 第1学年

小笠原村の中学生を対象にした令和3年度小笠原村中学生「人権作文コンクール」において、最優秀賞及び優秀賞に入賞しました。最優秀賞受賞作品はさらに東京都大会に推薦されました。

小笠原村最優秀賞 東京都作文委員会賞 第2学年

小笠原村優秀賞 第1学年

全国の中学生を対象にした令和3年度芝納税貯蓄組合連合会主催「税についての作文コンクール」において、芝納税貯蓄組合連合会会長賞に入賞しました。

芝納税貯蓄組合連合会会長賞 第3学年

芝納税貯蓄組合連合会会長賞 第3学年

令和3年度一茶まつり全国小中学校俳句大会において、国内外の小中学生から応募(中学生の部 25,947人)がある中、中学生特選15名、秀逸121名、入選285名のうち、入選に入賞しました。

入選「夏の海 キラキラすける サンゴ礁」 第2学年

12月の行事予定

1日(水) 安全指導 芝生の日 自転車安全点検
職員会議
2日(木) 三者面談始 避難訓練
6日(月) 2年職場体験始
8日(水) 2年職場体験終
9日(木) 食育講話
13日(月) 学校朝礼 SC勤務
14日(火) お弁当の日
15日(水) 芝生の日
16日(木) 三者面談終 新入生保護者説明会
SC勤務

18日(土) 土曜授業日 3年総合発表会
20日(月) 振替休業日
21日(火) 学校朝礼
22日(水) 職員会議
23日(木) 全体学活リハーサル SC勤務
24日(金) 大掃除 全体学活 終業式
25日(土) 冬季休業日始

※ 当初12月18日(土)に予定していました音楽発表会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年生を送る会とともに3月12日(土)に日程を変更いたします。